

OUR CREW

兵庫医科大学のUI(ユニバーシティアイデンティティ)で策定したスローガン「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」を実践している兵医ファミリーを紹介。
今回は「千里メディカルラリー」で優勝した、チーム「宮っ子ビーポー」のエピソードを紹介します。

兵庫医科大学
チーム「宮っ子ビーポー」

救急科医師
たかはし ちかこの まみつき
高橋 知佳子・野間 光貴

救急科看護師
おおたに りさ みやち ゆりえ
大谷 理沙・宮地 百利恵

救急科の医師・看護師として人々を助ける4人。
「千里メディカルラリー」の練習を通じて研鑽を積み、自身のスキルを向上。そのノウハウを仲間へ共有し、救急現場のレベルアップを図っている。



EMPOWER THE PEOPLE BY

想像と創造

緊迫した救急の現場で生きる チームワークの重要性を次世代に伝える

メディカルラリーに出場し千里と島根で優勝

宮地 医師と看護師、救命救急士がチームを組み、災害などの状況を想定したシチュエーションの中で模擬患者を診察し、得点を競うのが「メディカルラリー」です。その国内最大規模となる「千里メディカルラリー」や、「島根メディカルラリー」でそれぞれ優勝という結果を残すことができました。

大谷 以前、先輩達が出場していたのを知りずっと憧れていました。コロナの影響もありしばらく開催されていませんでしたが、再開を機に出場を決めチームを結成しました。チーム編成に際し、サポート役の先生が西宮市消防局との間を取り持ってくれました。

一刻を争う状況でも冷静に対処



大谷 メディカルラリーはかなりリアルなシチュエーションを想定して行われ、周辺のやじ馬や現場の暗闇なども再現されます。患者の診察・処置だけでなく、やじ馬や患者家族への対応なども含めて採点が行われます。

宮地 そのため、練習ではチームワークを特に意識していました。現場での役割分担では、救命を最優先としつつも、他にも対応しなければならないことが出てきます。一人ですべてに対応することは難しいので、うまく役割分担することを心がけました。

高橋 日常でもそうなのですが、看護師さんは患者対応をしながら家族対応をも絶妙なバランスで行っています。これまであまり考えてこなかった、他職種の方が何を考えながら動いているかが分かったのはとてもいい経験になりました。

野間 例えば、工事現場で破砕機に足を挟まれてしまった男性に足がなくなる可能性をどのように伝えるか、溺れた2

人の幼児を周囲への配慮を欠かさず蘇生できるか、妊婦さんが難聴だった場合にどのような分娩介助で安心を与えることができるか、など多種多様なシナリオを経験しました。すべての症例から学ぶことができました。『緊急時こそ、平静に』時間が命の世界であるため、各々が職種の役割を全うするチームワークが必要でした。

高橋 現場では求められる医療と提供可能な医療が異なります。またリソースに限りがあるので、対応の優先順位もつけなければなりません。命にかかわる場面でも求められる医療を想像して、現実とすり合わせながら提供できる医療を創造する姿勢が重要です。

得た経験を周りにフィードバック

高橋 メディカルラリーはかなり細かい点までチェックされます。実際の現場で自分の行動を採点されることはないのですが、外から客観的に評価をいただくことでスキルの向上に繋がりました。

大谷 現実ではありえない症例は一つもないので、先輩に共有して現場のレベルアップにもつなげています。

野間 西宮市消防局とのつながりができたのも良かったです。ラリーをきっかけに合同研修なども行われているので、今後も続けていきたいですね。

宮地 この経験を後輩に伝えることで救急全体のモチベーションが上がればいいなと思いますし、後輩たちが出場するきっかけになったらうれしいです。



肥満、糖尿病患者に起こりやすい 認知機能障害の診断・予防・治療に係る研究

解決すべき課題として注目されている、肥満、糖尿病患者に起こりやすい認知機能障害。

小山主任教授を中心とした研究グループでは、Hyogo Innovation Challenge (HIC) プロジェクトを通して強化された連携体制のなかで、潜在炎症を伴う認知機能障害の診断から自然免疫にかかわる受容体「RAGE」の関与について研究を進めている。



助教
三好 晶雄

大学院医学研究科
叶 大森

兵庫医科大学 医学部 糖尿病内分泌・免疫内科学

主任教授 小山 英則 (中央)

研究テーマ 自然免疫にかかわる受容体RAGEと認知機能障害
研究目標 RAGEを標的とした認知機能障害の予防・治療法の可能性の証明

認知機能の低下にRAGEの関与を特定

これまでも肥満や動脈硬化などの進行に、「RAGE」と呼ばれる自然免疫にかかわる受容体が深くかかわることを示してきた小山主任教授らのHIC研究グループ。これまでの研究から糖尿病などの患者の体内に潜在炎症が起こっていることが分かっており、潜在炎症は様々な合併症とかかわりが深い。「炎症の有無が分かるCRPというタンパクを高感度で測定できるようになったことで、肥満の方には正常の方よりも炎症が多い=代謝疾患のほかに炎症が起こっていることが分かりました。」

「そうしたわずかな炎症が認知機能の低下にもかかわっているのではないか」という仮説を立て、三好助教と大学院生の叶さんを中心に炎症物質として微量の細菌性毒素であるリポポリサッカライド(LPS)を4週間持続投与する「潜在炎症マウスモデル」と遺伝子改変マウス、または骨髄移植による「末梢免疫細胞特異的RAGE欠損マウス」を用いてRAGEの関与の解析を行った。

「潜在炎症モデル」では、血中のIL-1βなどのサイトカイン上昇を惹起しなかったが、体重増加、血糖上昇、内臓脂肪増加など、メタボリックシンドロームと類似した特徴を示し、また空間記憶などの認知機能が障害されていた。一方、RAGE欠損マウスの「潜在炎症モデル」では認知機能障害が起こらなかった。このことから、メタボリックシンドロームなどに深くかかわる潜在炎症がRAGEを介した「末梢免疫細胞の潜在的な活性化」により、脳内炎症とそれに伴う認知機能障害を引き起こすことが明らかになった。この結果により、RAGEを標的とした予防・治療法の可能性が示された。「RAGEはすべての人に備わっている

タンパクです。細胞の表面にあるRAGEを減らし、分泌RAGEを増やす治療や食生活ができれば、肥満や糖尿病を起因とした認知機能の低下を抑制できる可能性があります。」

臨床研究への橋渡し研究にも注力

食生活や生活習慣によってRAGEを抑制できる可能性があることに注目。小山主任教授らは現在、潜在炎症の主な原因とメカニズムを明らかにするため、臨床現場と提携した患者の食事調査や腸内細菌を含めた解析等を進めている。こうした研究の推進には、他の専門分野の研究者や臨床現場との繋がりが不可欠であり、HICプロジェクトを通して臨床と基礎研究の距離感がより近くなり、繋がりが強化されたことで様々な知見を得ながら研究を進められているという。「腸内細菌叢については病原微生物学の石戸主任教授と一緒に調べています。その他、免疫学の黒田主任教授や薬理学の北岡主任教授、解剖学の八木主任教授らとの研究も進めています。学部の横断だけでなく、産学連携して積極的に意見を交わし、研究をより深めていくことにも引き続き力を入れていきたいですね。」

現状、通常の血液検査では末梢免疫細胞の潜在的な活性化を簡単に見つけることはできない。認知機能の低下と食事内容のかかわりに関する研究と並行して、認知機能に深くかかわるバイオマーカーを見つけることも目標の一つだ。「将来的に、認知機能障害を引き起こすおそれがあることが簡単にわかるようになれば、予防や早期治療にさらに貢献できると考えています。」

KEY WORD

潜在炎症

LATENT CHRONIC
INFLAMMATION

炎症とは物理的・化学的・生物学的刺激や感染等に対して起こす、腫れや痛みなどの生体の防御反応のこと。表面的にはそうした症状がでていないにもかかわらず、炎症細胞が存在している状態が潜在炎症と呼ばれる。



法人からのお知らせ

◆2024年度 学校法人 兵庫医科大学 事業計画・予算

2024年3月28日開催の理事会において、学校法人兵庫医科大学の2024年度事業計画「重点施策」および予算が以下のとおり決定しました。

■事業計画「重点施策」

法人

- ・予算編成プロセスの最適化
- ・教職員満足度及び帰属意識の向上に資する魅力ある組織風土を目指した体制整備

兵庫医科大学

- ・質の高い入学生確保とドロップアウトを防ぐ在学生の学修指導強化

兵庫医科大学病院

- ・収益性の確保に向けた体制強化

ささやま医療センター

- ・ささやま医療センターの経営改善

■予算

1. 概要

2024年度予算は、事業活動収支予算における基本金組入前当年度収支差額を、1,954百万円（2023年度予算比+328百万円）計上しました。物価高騰が続く中、新病院棟建設などに向けた財務基盤強化への取り組みを進めることとし、2023年度予算よりも高い水準の収支予算となりました。

2. 事業活動収入

法人全体で62,104百万円（前年度予算比+652百万円）を計上しています。主な収入源として、授業料などの学生生徒等納付金を7,262百万円、医療収入を49,359百万円計上しました。医療収入の大半を占める大学病院部門においては、診療単価の上昇による医療収入の増加を見込んでいます。

3. 事業活動支出

法人全体で60,150百万円（前年度予算比+324百万円）を計上しています。主な増加要因として、物価高騰による各種費用の増加や、大学病院部門の薬品費増加が挙げられます。また、2005年竣工の平成記念会館では大規模な改修工事（外装・防水）を予定しています。

※「事業活動収支」とは

事業活動収支計算書は、学校法人が作成しなければならない計算書類（財務3表）のうち、会計年度における事業活動の収入・支出の内容および収支差額を明らかにすることを目的としています。

収入と支出は、経常的な収支である「教育活動収支」「教育活動外収支」と臨時的な収支である「特別収支」にそれぞれ区分されます。

※「基本金組入前当年度収支差額」とは

事業活動収入から事業活動支出を差し引いたもので、企業の損益計算書における「当期純利益」に相当します。

事業活動収支予算

(単位:百万円)

収入の部				
	科目	2024年度	2023年度	増減額
	学生生徒等納付金	7,262	7,342	▲ 80
	手数料	230	230	0
	寄付金	609	589	20
	経常費等補助金	2,241	2,308	▲ 67
	事業収入	1,382	1,610	▲ 228
	医療収入	49,359	48,396	963
	雑収入	679	685	▲ 6
	教育活動収入計	61,762	61,160	602
	受取利息・配当金	277	232	45
	教育活動外収入計	277	232	45
	その他の特別収入	65	61	4
	特別収入計	65	61	4
	事業活動収入計	62,104	61,452	652

(単位:百万円)

支出の部				
	科目	2024年度	2023年度	増減額
	人件費	23,866	23,953	▲ 87
	教育研究経費	3,995	3,972	23
	医療経費	26,985	26,294	691
	管理経費	1,300	1,364	▲ 64
	減価償却額	3,766	4,003	▲ 237
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	59,912	59,586	326
	借入金等利息	22	25	▲ 3
	教育活動外支出計	22	25	▲ 3
	資産処分差額	16	15	1
	特別支出計	16	15	1
	予備費	200	200	0
	事業活動支出計	60,150	59,826	324
	基本金組入前当年度収支差額	1,954	1,626	328

注)四捨五入の関係で、合計等は必ずしも一致しない。

◆理事・評議員の変更について

評議員

新任 (4月1日)	学校法人兵庫医科大学 事務局次長	中村 高志
再任 (4月1日)	学校法人兵庫医科大学 理事	西岡 清
退任 (3月31日)	宝塚市立病院 総長	西 信一

監事

再任 (4月1日)	公認会計士	後藤 研了
--------------	-------	-------

◆ 人事情報 役職者及び主任教授・教授の就任挨拶をご紹介します (2024年4月就任)



学校法人兵庫医科大学 阪上 雅史 常務理事

4月より常務理事を拝命し、西岡 清 理事の後を継いで病院事業管理者として西宮本院、ささやま医療センター、梅田健康医学クリニックを統括する立場になり身の引き締まる思いです。2019年から5年間、現場第一主義で病院長職を務めました。まず財政改善に全職員一丸となって取り組み、今まで以上の収支差を達成しました。3年間のコロナ感染対策には医師・看護師・薬剤師・技師・事務を含む多職種連携One Teamで重点医療病院としての責務を果たしました。2023年からは心理的安全性の高い職場をめざして権威勾配の撤廃をめざしましたが、道半ばであります。

病院事業管理者となって病院長時代より現場に出る機会が減りますが、以下のことを念頭に置きたいと思っております。
(1)西宮本院の収支差をさらに改善して新病院建設に貢献すること、(2)ささやま医療センターの収支改善と今後の在り方、(3)梅田健康医学クリニックの機能充実と黒字の拡大、(4)新病院準備室長(2016年～)としてHuman Centered Hospital(「ひと」が主役の未来型スマートホスピタル)に恥じない病院を期日通りに完成させること、(5)3施設の連携を高めて患者さんの引継ぎを円滑にすること、(6)兵庫医科大学病院のブランド力を高めること、(7)教育機関として医師・薬剤師・看護師・技師の研修内容を充実させること、(8)法人全体として心理的安全性の高い職場を構築すること、などです。

最後に、3施設の発展、特に財政面の発展、そして兵庫医科大学全体の発展に全身全霊をもって尽くす所存ですので、皆様方におかれましてはご理解とご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院 池内 浩基 病院長

このたび、4月1日付で兵庫医科大学病院長に就任いたしました。このような重要な役割を担わせていただき、深く感謝申し上げます。私は1987年3月に10期生として本学を卒業後、旧第2外科 宇都宮 讓二 教授の教室に入局しました。兵庫医科大学は旧第4内科の下山 孝 教授が炎症性腸疾患を専門領域としていたことと、宇都宮 讓二 教授が、大腸全摘後も人工肛門にならない大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術を開発していたこともあり、当時から炎症性腸疾患の患者さんが多く、私も炎症性腸疾患の外科治療を専門領域としてきました。

兵庫医科大学は開学50周年を機に兵庫医療大学と統合し、4学部を擁する医系総合大学として歩み始めました。この目的の一つは今後重要となる多職種連携によるチーム医療の教育と推進にあります。患者さんを中心として、多職種の医療職者が互いの立場を尊重しつつ、それぞれの専門性を生かしながらより良い医療を提供できるように努めてまいります。

また、いよいよ本年度より医師の働き方改革が施行されます。地域医療の中核を担う大学病院として、最新の医療の提供だけでなく、病診・病病連携を強化し、地域医療を支えることも使命です。この改革を実行するにあたり本当に地域医療を支えることができるのか、という大きな課題を抱えています。初めの2・3年は現実を見ながら対処していくことが重要であると考えています。

兵庫医科大学病院は2026年秋の開院を目指して、現在、新病院棟を建設しています。私の任期中に新たな病院棟への機能移転が行われます。新病院棟の完成により療養環境と利便性はかなり改善されます。特定機能病院として、地域の医療機関とのネットワークを強化し、これまで以上に安全で質の高い医療を提供してまいります。今後ともさらなるご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 呼吸器外科学 舟木 壮一郎 主任教授

このたび、呼吸器外科学主任教授を拝命いたしましたのでご挨拶申し上げます。私は2001年大阪大学を卒業し、旧第一外科に入局、その後、関連病院で外科研修を終えた後、2007年に大阪大学呼吸器外科に帰局し、肺癌、胸腺腫上皮性腫瘍、肺移植を中心に、研鑽を積んで参りました。診療では肺癌、胸腺上皮性腫瘍に対して低侵襲手術から進行期の拡大手術まで幅広く従事して参りました。また研究面では、肺癌のバイオマーカー研究、エピジェネティクス変化による発がんメカニズムの解明、さらに肺癌における免疫チェックポイント蛋白の発現制御などの基礎研究に取り組んで参りました。これらの経験をもとに本学の特徴である中皮腫にもより一層力を入れ高度かつ安心安全な医療の提供と、研究・教育の両立を図っていく所存です。そして喫緊の課題である外科医離れや働き方改革も念頭に労働環境にも配慮した持続可能な医局運営に努めて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 産科婦人科学 馬淵 誠士 主任教授

このたび、産科婦人科学講座の主任教授を拝命いたしました。私は1997年に和歌山県立医科大学を卒業し、大阪大学および関連機関にて臨床研修を行った後、約20年間、婦人科腫瘍学の診療・研究に従事しました。診療では、ロボット手術、妊孕性温存手術、再発癌の救済手術に取り組み、研究では腫瘍随伴性白血球増多症に着目し、病態の解明と新規治療の開発に取り組んできました。今後は、兵庫医科大学が婦人科がん治療・研究の重要な拠点として地域に貢献できるよう取り組む所存です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 生理学 生体機能部門 齊藤 寿郎 主任教授

このたび生理学 生体機能部門の主任教授を拝命致しましたので、御挨拶申し上げます。私は2004年に九州大学医学部を卒業し、初期臨床研修・循環器内科研修を経て、同大学大学院で循環器系生理学の研究を開始しました。

その後は米国Rutgers大学・山口大学などへ籍を移し、生理学の教育に従事しつつミトコンドリアの品質管理機構を軸に研究を展開して参りました。経験を活かし、兵庫医科大学では次世代の医療人・医学者の育成に全力を尽くします。

コロナ禍や欧州情勢の変動を経験した現代に於いて、未知なる困難に対応できる人材が真に必要とされます。如何なる環境下でも問題解決能力を発揮し、即興性に優れ、対外的な協力関係を構築できる医療人を輩出したいと考えます。甚だ浅学非才の身ですが精進を重ねます。何卒ご指導の程お願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 社会医学 予防医学部門 丸茂 幹雄 主任教授

このたび、社会医学講座 予防医学部門の主任教授を拝命いたしました。私は1994年に17期生として兵庫医科大学を卒業し、本学の旧第二内科学講座に入局して臨床に携わった後、山形大学医学部 衛生学講座で研究に従事し、基礎医学の道に進みました。臨床にて血栓止血系の疾患を扱ってきた経験から、一貫して血小板研究、特にカルシウムチャネルのメカニズムについての研究を行っております。多くの時間を本学で過ごしてまいりましたので、今後はその御恩に報いることができた

らと考えております。ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 放射線医学 主任教授 兵庫医科大学病院 山門 亨一郎 副院長 (情報システム、高難度新規医療技術評価担当)

2024年4月1日より池内院長の命を受け兵庫医科大学病院の副院長を拝命しました。私は1987年に金沢大学を卒業した後、三重大学の放射線科に入局しLVRを中心に臨床、研究、教育に取り組んできました。2015年に本学に異動し、2017年に主任教授に就任しました。2023年度は記録的な病院収益をあげ、新病院建設へ向けての機運も高まっています。収益の維持とともに病院職員が気持ちよく働けるような環境を構築できるよう努力していきたいと思っております。何卒、よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 糖尿病内分泌・免疫内科学 准教授 兵庫医科大学病院 アレルギー・リウマチ内科 東 直人 診療部長

このたび、糖尿病内分泌・免疫内科学准教授、アレルギー・リウマチ内科診療部長を拝命いたしました。1974年和歌山市生まれ、智辯和歌山高出身です。1999年本学卒業後第2内科入局、兵庫県立淡路病院、国立病院機構大阪南医療センターを経て、2007年より当科です。リウマチ・膠原病・アレルギー領域の進歩はめざましく、「分からなかったことが分かる」「出来なかったことが出来る」ようになって来ました。佐野 統 教授、松井 聖 教授が築かれた良き伝統を継承し、世界基準の診療、次世代を担う人材の育成、そして当科ならではの研究を推進していきます。よろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 病態解析学 朝倉 正紀 主任教授

このたび、兵庫医科大学病態解析学講座の主任教授を拝命いたしました。私は大阪警察病院、大阪大学、国立循環器病研究センターにて循環器診療に携わり、2016年より兵庫医科大学循環器内科

准教授として赴任させていただきました。このたび担当させていただきます病態解析学講座は臨床検査医学講座を母体としており、これからも兵庫医科大学の臨床検査診療を支えることに尽力してまいります。また講座名が示しておりますように、病態を解析する必要性を伝える学生教育にも貢献できるように努めてまいります。ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 社会医学 データサイエンス部門 森本 剛 主任教授

このたび、社会医学講座データサイエンス部門の主任教授を拝命いたしました。私は1995年に京都大学を卒業後、同附属病院に新設された総合診療科の第1期生として、総合診療医としてのキャリアを歩み始めました。米国人指導

医によるトレーニングが受けられる市立舞鶴市民病院及び国立京都病院総合内科での総合診療医としての研鑽の後、京都大学大学院医学研究科臨床疫学に入学し、在学中にハーバード大学公衆衛生大学院臨床疫学専攻にも入学し、臨床疫学及び生物統計学の研鑽を積んで参りました。臨床研究の醍醐味は、今日の診療から得られた観察を科学的に分析して、未来の患者さんの診療に生かすことです。引き続き本学からのエビデンスの発信に貢献すると同時に、次世代の臨床研究者の育成に尽力していく所存です。皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくようお願い申し上げます。



兵庫医科大学 医学部 脳神経内科学 主任教授 兵庫医科大学病院 木村 卓 副院長 (地域連携、診療体制、ささやま医療センター・梅田クリニック連携担当)

このたび、兵庫医科大学病院副院長を拝命いたしました。私は1992年に大阪大学を卒業し、大阪急性期・総合医療センターで研修、大学院、海外留学を経て、2006年に当院に赴任しました。2020年に脳神経内科学診療部長となり、患者さんに最適な医療を提供するためには、地域の先生方との連携が不可欠であることを痛感しています。今後は、円滑な紹介システムを構築するとともに、講演会、交流会を通じて、先生方とお互いの顔が見える関係を築いていく所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学 薬学部 三浦 大作 教授

このたび、兵庫医科大学薬学部生物系薬学分野(生物化学)の教授を拝命いたしました。私は1996年に大阪府立大学農学部獣医学科を卒業後、財団法人食品農薬品安全性評価センターの研究員を経て、2008年より兵庫医療大学薬学部に着任し、教育・研究に携わってまいりました。今までに行ってきた分子生物学的手法を基盤とした薬物トランスポーター研究や病態発症の責任分子に関する研究を通して、本学薬学部の教育・研究が魅力あるものとして発展するよう尽力する所存です。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

◆兵庫医科大学 開学50周年記念事業募金 状況報告

「兵庫医科大学開学50周年記念事業」のための募金活動を開始し、教職員・名誉教授の方々をはじめとして、後援会(保護者)、同窓会(緑樹会、海鳥会)、企業等法人、関連病院など幅広い方々から温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただきます、改めて感謝の意を表したいと存じます。

～2024.3.31

区分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
申込	220	755,390,000円	621	283,268,888円	841	1,038,658,888円
入金	220	755,390,000円	621	281,713,888円	841	1,037,103,888円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧(順不同)

2023年12月1日～2024年3月31日

企業等法人(7法人)

- ご芳名・金額記載(1法人)
株式会社メイマネジメント 様 1,000,000円
- ご芳名のみ(2法人)
株式会社スズケン 様 大末建設株式会社 様 (匿名4法人)

同窓会[緑樹会](2名)

- ご芳名・金額記載(2名)
藤末 洋 様 500,000円
蓮池 由起子 様 250,000円

その他個人(6名)

- ご芳名・金額記載(2名)
前畑 米 様 50,000円
山本 高裕 様 50,000円
- ご芳名のみ(1名)
高橋 あゆみ 様 (匿名3名)

教職員等(9名)

- ご芳名・金額記載(1名)
沖本 進哉 様 10,000円
- ご芳名のみ(2名)
野田 洋子 様
森 康行 様 (匿名6名)

◆クラウドファンディング第2弾報告

お年寄りの健康寿命を延ばしたい | 血液中の長寿因子の探索にご支援を

- 募集期間 2023年11月27日～2024年1月19日
- 寄付総額 9,140,000円(目標金額:3,000,000円) ●寄付件数 239件

ご支援へのお礼



兵庫医科大学 医学部 総合診療内科学
主任教授 新村 健

皆様のご支援により、我々のクラウドファンディングへの初挑戦は大成功のうちに終了となりました。我々の研究に心を寄せてくださった大変多くの皆様方のご縁は、頂いたご支援金以上に、我々にとって大きな財産です。改めて、すべての支援者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。
現在我々は、2024年度のコホート研究実施に向けて準備を進めており、最大の目標である血液検査の解析もスタートしました。研究成果を公表できる日まで、引き続き我々の挑戦を暖かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

キャンパス通信 神戸キャンパス編

各キャンパスの日常やイベントにまつわる話題を紹介します。
今号では、神戸キャンパスから短期留学プログラムの話題をお届けします。



▶ アデレード大学 短期留学プログラム 4年ぶりの再開

「アデレード大学短期留学プログラム」が4年ぶりに再開となり、2024年3月9日～24日の16日間、看護学部から12名の学生が参加しました。学生は、オーストラリアのアデレード大学で英語学校や看護学部の授業を受講しました。看護学部の授業では、緊張しながらも現地学生の援助を受けながら楽しく学ぶことができ、現地学生の積極的な参加姿勢に刺激を受けていました。病院見学では日本との相違点を考えながら質問することもでき、英語学校では全員修了証を取得できました。また、ホストファミリーとBBQをしたり、海岸に行ったりと有意義な時間を過ごせました。

キャンパス通信 梅田キャンパス編

各キャンパスの日常やイベントにまつわる話題を紹介します。
今号では、梅田健康医学クリニックが開催したセミナーの様子をお届けします。

▶ 医療の最前線で活躍する医師による 「阪神沿線健康講座」を開催～体験コーナーも出展

阪神電気鉄道株式会社と共催で2015年より開催している「阪神沿線健康講座」第36～38回を西宮・梅田の各会場で開催しました。3月16日に開催した第37・38回は大阪梅田ツインタワーズ・サウス内の会場にて「知っておきたい消化管のはなし」(梅田健康医学クリニック 中村講師・西井助教)、「健康長寿に向けて今できること」(総合内科 長澤准教授)をテーマとした講座を行いました。同会場には梅田健康医学クリニックによる「超音波検査体験コーナー」も出展し、親子連れを含む多くの方が参加しました。

